



「受けた、見聞きした」5割超

連合のハラスメント調査

連合は11月16日、「ハラスメントと暴力に関する実態調査」の結果をまとめた。職場でパワハラやセクハラ、妊娠・出産、介護、社会的性差、性的志向を理由とする嫌がらせを受けたら、見聞きしたりしたところのある人は、5割台半ばに上った。被害を受けた人の5割が仕事に支障が生じたと答えている。

調査は、連合が民間の調査会社に委託したもの。10月下旬、18〜69歳の有職者モニタ―男女各500人から回答を得た。

嫌がらせを受けた・見聞きしたことがあるのは56・2%。そのうち、加害者は「上司や先輩」が多い。いじめや嫌がらせでは「上司・先輩」が7割で、「同僚」3割、「部下や後輩」7%が続く。その他の嫌がらせも傾向は同じだ。

嫌がらせの被害を受けたことのある当事者254人のうち、「相談した」は58%で、「どこにも相談しなかった」は42%。非正規労働者の方が相談しなかった割合が高い。

嫌がらせが原因で生じた生活上の変化を聞いたところ、「仕事のやる気がなくなった」

り、ミスやトラブルが多くなったりした」が47・2%と最も多く、仕事への支障を訴えている(複数回答)。特に10、20代

の若年層では67・5%と高い割合を示した。

相談相手では「職場の上司や人事担当者、同僚など」が60%で最も多く、親など身近な人が27%、職場以外の知人・友人が25%、職場の相談窓口が14%。労働組合はわずか8%にとどまった。

ハラスメントを受けた時の生活上の変化(複数回答)

- ▽仕事のやる気がなくなった 47・2%
- ▽心身に不調をきたした 33・1%
- ▽夜、眠れなくなった 19・3%
- ▽仕事を辞めた・変えた 18・9%
- ▽自分が価値のない存在になったと感じた 15・7%
- ▽仕事を短期間休んだ 14・6%
- ▽人と会うのが怖くなった 12・2%
- ▽仕事を長期間休んだ 7・1%
- ▽外出するのが怖くなった 3・9%
- ▽転居をした 2・4%

(連合通信から)

新歳時記クイズ

トド

サンマや秋ザケの漁獲減に加えて近年、北の海の漁業関係者を憂鬱にさせるのが海獣トドによる被害。漁網を食い破って獲物を食い荒らしてしまう。そのトドが北海道沿岸に居座るのは11月〜翌年春だ。ところで、「とどのつまり」

という言葉があるが、海獣トドとの関係は?

〈答え〉「結局」「行き着くところ」といった意味だが、海獣とは無関係で、魚のボラのこと。ボラは成長するにつれて何度も名前を変える出世魚として知られ、最終的に「トド」となることから、「とどのつまり」という言葉が生まれたとか。海獣が穴に詰まった、ではない。(連合通信から)